



第27回 浅間温泉夏祭り



令和5年9月1日現在

人口	14,354人
男性	6,940人
女性	7,414人
世帯数	6,913戸

第27回浅間温泉夏祭りが、8月11日、12日、13日と浅間温泉広場で新型コロナウイルス禍の落ち着きを見せる中、4年ぶりの開催となりました。

盆踊りはやぐらを囲んで、信地区民謡舞踊赤堀社中の皆様とともに子どもから大人まで、大勢の人たちが盆踊りを楽しんでいました。

その他、1日目は中山太鼓連の皆さんの迫力ある演奏、2日目は松本第一高校吹奏楽部の華麗な演奏、3日目は本郷若獅子太鼓の演奏もあり、会場からは歓声が上がっていました。

地元住民による夜店の出店もあり、抽選会など様々なイベント



今年もコロナの影響で町会のふれあい納涼祭の出席人数が集まらない事から、中止となっていました。

一方で、青山様、ほんぼんは子ども達が集まってくれる心配していましたが、かなりの人数が集まり、ひと安心で開催されました。

(南浅間町会 T)



トを企画して、お盆で帰省した家族連れの方等、大勢の人でにぎわっていました。

(浅間温泉第1町会 Y)

南浅間
青山様・ほんぼん



- 問53 県宮陸上競技場(水汲)から長野県松本文化会館へ
- 問54 登山マラソンから自転車レースへ
- 問55 松茸山から松枯れ山へ
- 問56 大音寺山から御殿山・大正山へ
- 問57 美ヶ原台上通過ルートから和田回りルートへ
- 問58 スケートから自転車へ、自転車からサッカーへ
- 問59 第二桔梗荘から浅間つつじ荘へ (つつじ)

大村町会納涼祭

8月14日(月) 大村町会納涼祭が盛大に開催されました。

「本郷若獅子太鼓」の力強い和太鼓演奏、伝説のロックバンド「ダラシナーズ」のライブ、信大ダンスサークルのキレキレK-POPダンス、「フラオハナロコマイカイ」の華麗なハワイアンフラダンス、そして締めには花火大会と盆踊り。来場者は生ビール片手に涼をとり、楽しいひと時を過ごしておりました。

(大村中町会 T)



合併50周年記念

これがかれば 本郷通 **がへ検9**

〈第2章この変化は変か?〉

合併後の50年をさまざまにキーワードで探る「がへ検」新シリーズの第3弾です。

記憶に残る言葉はありますか。



フリーコラム 古今東西

この夏も猛暑の日が続いた。「どこか涼しい場所はないものか」と思い、浅間温泉街から大音寺山のおもとにある「不動の滝」に向かった。

滝は薄暗い木立ちの中にあつた。流れ落ちる水流は予想より細かったが、周囲はひんやりとしており、涼むことができた。傍らに句碑が建つ。「虹吐いて 夏よせつけぬ 瀑布かな(花ノ本聴秋)。

この滝は不動明王を祭る不

夏の甲子園の決勝を職場のテレビで見た。皆、仕事をしている振りをしていたが時折一斉に「ウォー」と声があるので画面に目を向けるとホームランやヒットが放たれていて、これはもう一緒に見るしかないと感じ参戦した。

完成されたプロ野球とはまた違い、未熟な彼らが懸命にボールを追う姿、これが良い。かつての真っ直ぐだった自分を重ねて思い出すのか、ちよつと切なくなつて無条件に応援したくなる。

しかし、点差は少しずつ開き、慶応が8対2で仙台育英に勝利した。試合後の両監督はお互いに相手チームを誉め

動堂の直下にある。大正6年に公園整備の際に造られた人工の滝で、近くの沢水を引いている。不動堂を訪れた女性は「冬は滝が凍り、見応えがあります」と話した。厳寒の滝を想像し、汗をぬぐつた。

(浅間温泉第4町会 T)



称え尊敬している。優勝インタビューを受けている最中も仙台育英高校の監督は何度も祝福の拍手を送り、涙する選手も同様に拍手で相手を称えている。

楽しむ野球。自分たちで考え、トレーニングを組み、科学的根拠に基づいてコンディションを作る。その考えが自主的に選手の積極性を引き出し勝利に繋がった。前髪をかき上げながらグラウンドに飛び出してゆく選手たちは青春の一コマのように美しい。彼らの優勝により、また丸坊主の所が懸命に練習して、勝利を目指してやってくる。

(浅間温泉第8町会 K)

合併50周年記念特別企画 50年によせて

冬の日の情景

50年前の冬、小学生だった私は、玄向寺の横の田んぼに張られた氷の上で、スケートをしたのを今でも鮮明に覚えています。氷の厚さがまちまちで、薄い氷の部分に乗ってしまった私は、氷が割れてずぶぬれになって帰りました。

当時大村地区は、田んぼと桑畑が広がり、2月頃には、雪が降ると一面が雪化粧で覆われ、日中に溶けた雪が夜になると凍結しました。子供たちは表面の凍った雪の上をそろりそろりと歩き、表面だけが固い雪の上を踏み抜かず

歩けるかを競つたものでした。また、雪の積もつた日に、下宿していた信大の学生たち数人が、幼かった私に大きな「かまくら」を作ってくれ、その中で遊んだ記憶がよみがえります。

関東出身の学生には雪が珍しいのか、楽しそうに雪と戯れている姿が今でも思い出されます。温暖化の影響ででしょうか、最近では雪もあまり降らず、田んぼに氷が張ることも少なくなりました。

寒さ厳しい冬の情景の中に嬉しい笑い声が聴こえる、そんな記憶が懐かしく、50年の月日を感じます。

(大村中町会 Y)

ダンボ

本郷地区南洞では、迎え盆の日の夕方、藁の束に縄をつけたものを集落の高いところに持って行き、火をつけて振り回すという行事が行われます。「ダンボ」と言われるものですが、「迎え火」の風習の一つの形のようなです。

「ダンボ」という呼び名はこの地区独特のもので、火を扱うにもかかわらず主役が子ども達というのも、珍しいように思います。



おっかなびつくりの子、力強く元気に振り回す子、取り組み方は様々ですが、火のついた藁束を振り回す姿は本当に楽しそうです。その様子を见守る親御さんたちもみんな笑顔です。

きつと大人になつても楽し

い思い出として心に残ることでしょう。

(洞町会 S)

2023 夏の公民館事業

コロナも落ち着きつつある2023年夏、公民館では、親子ディスカバリー、重要伝統的建造物群保存地区・白馬村青鬼地区視察研修など、催しが目白押しでした。子どもから大人まで、楽しく学べる公民館を目指し、残りの半年間の事業を実施します。

